

岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

岐阜大学の ビジョン × 戦略 × ハイライト

- 教育研究評議会における女性教員枠を新設、運用開始(2023.4)
- JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択～ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト～(2023.4)
- 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事を開催(2023.6)
- 岐阜大学基金学長特別表彰制度を創設(2023.10)
- 初のネーミングライツ契約締結 図書館1階「Sky ACADEMIC CORE」(2023.10)
- 第1回岐阜大学ホームカミングデイを開催(2023.11)
- ネーミングライツ契約締結 TOIC岐阜サイト「OKB岐阜大学プラザ」、全学共通教育棟1階「IBIDEN Innovation Hub」(2024.4)
- 岐阜大学教育学部創立150周年記念行事を開催(2024.6)
- 大学支援フォーラムPEAKS実証事業採択(2024.10)





岐阜大学長
東海国立大学機構
大学総括理事・副機構長
吉田 和弘

地域創生を牽引する知と人と技術を育み、 国内外に広がるネットワークを構築する

2020年4月、東海国立大学機構(以下 東海機構)が発足してから、岐阜大学は当初の想定以上に発展しました。季節でいえば春が終わり夏を迎え、次の10年に向けて大変重要な時期にさしかかったところです。この間、「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想に掲げたライフサイエンス、ものづくり、環境・エネルギーという3つの領域で、「教育・人材育成」「研究・価値創造」「社会連携・産学連携」「国際展開」の4つの戦略に沿って改革と発展、進化を目指した取り組みを推進してきました。

「教育・人材育成」では、次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)により大学院博士課程の学生を強力に支援し、本格始動した「ぎふ地域創生人材育成プログラム(SPARC-GIFU)」では地域の産官学金と連携した教育と地域創生の取り組みが進んでいます。新しい学びとしては、大学院社会システム経営学院を設置し、応用生物科学部は生命・食・環境を柱とする3学科に再編。いずれも2025年4月にスタートします。また女子学生支援、女性研究者支援でも独自の取り組みを推進しています。

「研究・価値創造」では、東海機構の連携拠点支援事業に認定された糖鎖生命コア研究所、One Medicineトランスレーショナルリサーチセンターでの研究成果が、創業を中心にライフサイエンスの分野で国や地域の期待に応えつつあります。「社会連携・産学連携」では、航空宇宙生産技術開発センターが岐阜県との連携のもと航空と宇宙という注目分野で人材育成と産業発展に貢献。起業家教育・支援でも強みを発揮しています。知の循環を国際的に進める「国際展開」も

岐阜大学が強みとするところです。インド工科大学グワハティ校、マレーシア国民大学とのジョイント・ディグリープログラムで重ねた実績をベースに、フランスのリール大学、リトアニアのヴィータウタス・マグナス大学やカウナス工科大学、南フロリダ大学などとの交流もさらなる展開を図っていきます。

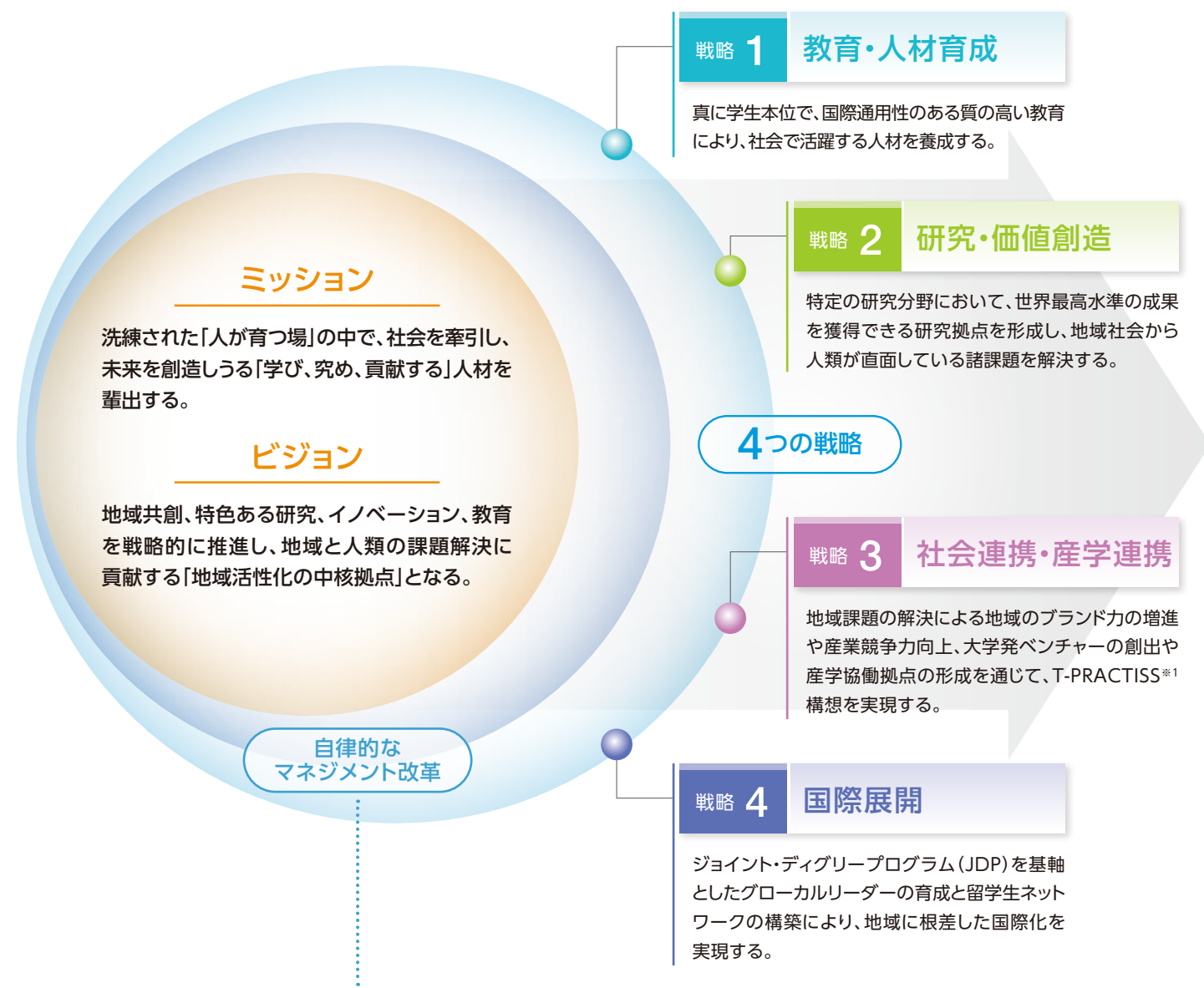
「ぎふのミ・ラ・イ・エ」構想のライフサイエンス、ものづくり、環境・エネルギーは、これらの取り組みにおいて本学と地域の産業や教育との連携を深め、さらに発展させるキーワードです。ライフサイエンスでは医薬獣工、食、農をまたいだ分野の知と人材を有する強みを活かし、世界的な企業が注目する研究成果を社会実装へとつなげるプラットフォームづくりを展望しています。ものづくりでは、地域創生教育と生産技術の研究拠点として航空宇宙、金型、新素材などの分野で、地域の企業が世界と戦える技術を育み、地域創生に貢献できる取り組みを展開しています。さらに環境・エネルギー分野では、地球規模の環境課題解決に必要な専門知・科学知を社会に提供し、ステークホルダーとともに解決策を共創していきます。

岐阜大学は東海機構の構成大学として、日本トップクラスの地域の中核大学を目指しています。しかし地域だけで力を発揮するのではなく、特定の分野では世界を目指すことができる強みをもって、地域社会とその成果を共有し共創型の社会実装大学を目指します。この姿こそ岐阜大学が目指す共発展モデルだと考えています。ステークホルダーの皆様には、今後とも本学への一層のご支援をお願いしたいと存じます。

岐阜大学のミッション・ビジョンと戦略

ー日本トップクラスの地域の中核大学を目指しますー

岐阜大学は、総合知を活かした研究力を強化し、その強みをさらに伸ばすことで、地域の中核大学としての役割を果たすことを目指し、中期のビジョンと戦略を策定しました。



学長のリーダーシップによる自律的なマネジメント改革

ガバナンス	一法人複数大学制の下、機構(法人)と構成大学間の連携強化、経営・教学の分離および監督・執行の分離体制の整備
資源配分	ポイント制による教員人件費管理、トータルバジェットでの資源配分、成果に基づく指標の活用など
地域貢献	地域ステークホルダーとの対話のもと、オープンイノベーション推進施設・設備や仕組みを整備など
財源の多様化	各種外部資金の獲得、クラウドファンディング、保有資産活用、研究成果活用促進への出資など
DEIB※2 宣言に基づく人事	多様性、公正性、包摂性を軸とした構成員の帰属性向上、優秀で多様な人材の確保など

※1 東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として、東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに、多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により、社会と人材・資金・知の好循環を形成し、大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル
T-PRACTISS: T=THERS(Tokai National Higher Education and Research System)
PRACTISS=Project to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society

※2 Diversity(多様性)、Equity(公正性)、Inclusion(包摂性) & Belonging(帰属性)

戦略
1 教育・
人材育成

真に学生本位で、国際通用性のある質の高い教育により、社会で活躍する人材を養成する。

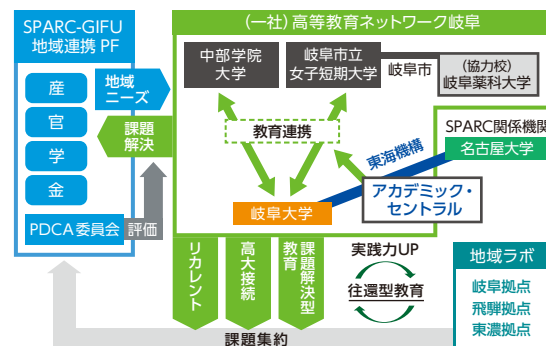
岐阜大学は、これまで進めてきた教育改革の成果をベースに、
2020年度以降は、法人統合のメリットを活かして、教育改革をさらに加速しています。

教育を軸に産官学金が連携し、地域変革の核となる

ぎふ地域創発人材育成プログラムSPARC-GIFU進行中



岐阜大学は、文部科学省による「地域活性化人材育成事業～SPARC～」(2022年度採択)の事業責任大学として、「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」事業を、中部学院大学、岐阜市立女子短期大学と連携して推進しています。



このプログラムでは、3大学で「(一社)高等教育ネットワーク岐阜」を設立後、2024年3月28日に文部科学省から大学等連携推進法人として認定を受け、3大学で連携開設科目の開講が可能となりました。また地域の産官学金各組織を結集したSPARCの活動を推進する「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」が結成され、運営協議会においては地域が求める人材像やその資質・能力を定めています。同年3月13日には、これらの結成を記念し、事業の趣旨や目指すべき具体像などを社会に発信するシンポジウムを開催しました。さらに岐阜、飛騨、東濃に地域ラボを設置し、地域社会をフィールドとした実践型PBL (Project Based Learning) や社会人

向け教育「スゴ腕リーダー育成講座」を開講しています。今後も地域社会との共生を念頭に、課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業を目指し、地域社会の発展に貢献する人材を育成していきます。



2024年3月13日、第1回SPARC-GIFUシンポジウム

岐阜大学の魅力を活かす 教育改革の推進

岐阜大学は、教育基盤のDX化、高大連携教育、理系女子応援プロジェクト、博士課程学生に対する研究に専念できる仕組みづくりなどを進めています。

- 【TACT(TOKAI Academic Combination Tools)】の共同運用：名古屋大学との遠隔のオンライン講義やテストの共同実施に加え、テキストや資料、学生自身の学習記録の入手が容易になり、コンテンツの相互利用による高い教育効果が期待されています。
- 学生ステータスシステム「crescendo」：岐阜大学では学生ステータスシステム「crescendo」の運用を2023年度後学期から開始。教育成果や個人の能力と特性を見える化し、学修者本位の教育を支援すると同時に、就職活動時の自己PRツールなどに役立てることができるようになりました。
- 航空宇宙人材の育成：岐阜県内の高校生を対象に、JAXAの協力を得て、岐阜県とともに高大連携教育を実施しています。2024年6月23日には、JAXA宇宙科学研究所・川勝康弘教授に「火星衛星探査計画MMX:世界初の火星衛星サンプルリターン」とのテーマで講演していただきました。
- ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト：岐阜県内の女子中高生、保護者、教員などを対象に理系の魅力を伝え、女性研究者のキャリアパスやロールモデルの提示を推進し、理系進路選択を応援しています。
- 次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)：メイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業として、博士課程学生に対する経済的支援のみでなく、キャリア支援、他分野の研究者との交流促進、産業界や国際舞台への優秀な博士人材の輩出を目指しています。2024年度には延べ70名を支援しました。



学生ステータスシステムの活用



JAXA川勝康弘教授による特別講演

戦略
2 研究・
価値創造

特定の研究分野において、世界最高水準の成果を獲得できる研究拠点を形成し、地域社会から人類が直面している諸課題を解決する。

岐阜大学は、名古屋大学とのシナジーを活かした東海国立大学機構の連携拠点支援事業として、
人類課題の解決、地域創生に貢献する研究を推進しています。

生命の本質を追究する国際研究を展開

糖鎖生命コア研究所 (iGCORE)

糖鎖(核酸、タンパク質と並ぶ第3の生命鎖)の機能を理解し、新しい生命原理を明らかにするとともに新たな生命原理を応用した医療の革新を目指しています。

2023年に糖鎖生命コア研究所の岐阜研究棟が本学キャンパス内に完成し、糖鎖化学、イメージングなどを専門とする研究者が集まって、アンダーワンルーフのもと、分子レベルでの糖鎖研究を中心に行っています。また、名古屋大学の糖鎖生物・糖鎖医学の研究者らとともに、それぞれの強みを活かして、生命原理の解明や医療革新につながる基礎研究を推進しています。

研究所は、若手研究者・大学院生の国際派遣(フランス、カナダ、台湾など)を実施するなど、国際的視点を持つ高度人材の育成にも尽力しており、その成果として、若手研究者・大学院生が国際的な学術賞を受賞しています。さらに、研究所に所属するゲラルデル特任教授は、リール大学(フランス)にも籍を置いており、そのリール大学との国際交流を基に、本学連合農学研究科で共同指導学位プログラムが2024年度より開始されています。



東海地域で革新的な航空機産業技術と人材を創出

航空宇宙生産技術開発センター (IPTeCA)

日本の航空宇宙生産の約50%が集中する東海地域において、産学官が一体となり、航空宇宙産業の国際競争力を高めるために、人材育成や技術開発に取り組んでいます。

岐阜大学と名古屋大学は、航空機設計から製造、飛行試験までを網羅する、日本唯一のカリキュラムを構築しており、これまで学生、社会人併せて約150名が修了しました。産業界と連携し、即戦力となるエンジニアを育成することで、航空宇宙産業の活性化に貢献しています。また、高品質・多品種少量生産という航空宇宙産業特有の課題解決を目指し、大学と企業が共同で研究開発を進めています。これまでに8件の特許を取得しているほか、生産の効率化と品質向上を図り、最終的には実際の生産現場に成果を実装することで、航空宇宙産業全体の生産性向上を目指します。今後、三菱重工業(株)、川崎重工業(株)、(株)SUBARUと連携を強化し、NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の支援のもと、ボーイング社も参加するグローバルな研究開発体制を構築していきます。革新的な航空機生産技術の開発を通じて、航空機産業の持続的な成長に貢献していきます。



世界の創薬研究に変革をもたらす

One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター (COMIT)



「ヒトと動物の疾病は共通」、すなわち「One Medicine」の視座にたち、医学・獣医学の境界を越えた新たな学際領域を開拓しています。そして、医学、獣医学、薬学、工学などの研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し、有望な創薬シーズを高度に選別し、治験につなげることでヒトと動物の創薬研究を変革していきます。

「One Medicine」の視座にたち国際的にわが国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく、「Sharing Medicine(人獣共通医療学)」の実現を加速させていきます。さらに、岐阜大学大学院自然科学技術研究科のカリキュラムにおいて2023年度は延べ188人の受講があった「創薬リサーチマネジメント人材実践の育成プログラム」を本格的に実施することで、リサーチマネジメント担当者や創薬研究者などを輩出し、創薬研究人材不足の解消につなげていきます。

戦略
3 社会連携・
産学連携

地域課題の解決による地域のブランド力の増進や産業競争力向上、
大学発ベンチャーの創出や産学協働拠点の形成を通じて、T-PRACTISS*構想を実現する。

岐阜大学は、地域の産学連携オープンイノベーション拠点をベースに、
アカデミアと産業界の共創による研究開発の成果を社会実装、地域活性化につなげています。

地域に開かれた産学連携・社会連携の拠点

Tokai Open Innovation Complex 岐阜サイト TOIC GIFU
(施設愛称: OKB岐阜大学プラザ)



東海国立大学機構の岐阜大学と名古屋大学が、東海地域における社会課題の
解決に取り組み、イノベーションを創出して地域の活性化を図るための地域の
産学連携オープンイノベーション拠点「Tokai Open Innovation Complex
岐阜サイト」が、2024年2月にオープンしました。

Tokai Open Innovation Complex (TOIC) は、共同研究等による企業の活動拠点、
スタートアップの活動拠点、新たなオープンイノベーションを創出する産学交流拠点と
しての役割を担っています。重点取組領域であるカーボンニュートラル、先端素材、デジ
タルトランスフォーメーションにおいては、地域のさまざまなステークホルダーとの
協働により「新領域で活躍する研究者」との交流イベント等の企画・開催、岐阜大学協力
会と名古屋大学協力会との連携、産学連携コーディネーターやURAによる支援、さらに
大学発スタートアップの活動拠点の提供等を行っています。オープン以来、実施した
イベント数は65回以上、参加人数は、延べ1,500人を超え、好評を博しています。

TOIC岐阜サイトの特徴的な取り組みとしては、研究者と企業人との共創の場
である「事業創造の現場で直面する課題とマネジメント」を実践できるリカレント教育
プログラムの実施や、地元金融機関である大垣共立銀行がOKB岐阜大学プラザ内
に開設したオープンイノベーション拠点「OKB SCLAMB」において起業プログラム
やメンター支援、ステークホルダーとの共創あるいはマッチングの場を提供し延べ
1,300人以上が利用するなど、地域の特徴を活かした産学連携を進めています。

岐阜大学発、スタートアップの創出・成長を支援する
アントレプレナーシップ教育の推進

岐阜大学は、学術研究・産学官連携推進本部の機能を強化し、岐阜大学発スタートアップの支援体制を整備してきました。
具体的にはスタートアップ創出支援・起業家育成のための専任支援人材の配置や、研究成果から生まれる起業シーズの
発掘・育成と経営者とのマッチング促進、さらには授業や起業部との連携を高めたアントレプレナーシップ教育の推進、
起業ファンド申請支援などを行っています。

■ 岐阜大学公認起業部の活躍：社会課題解決のための事業創出を担う起業家精神を持つ人材の育成・輩出、社会的インパクトの
ある学生スタートアップの創出、研究成果の社会展開、東海地域活性化/エコシステム構築への貢献を目指した活動が成果を
あげています。

■ 東海地域の起業家育成プロジェクト「Tongaliプログラム」に参画：岐阜大学は、Tongaliプログラムに幹事校として積極的に
参画し、ピッチコンテスト、ビジネスコンテストなどにおいて受賞する優秀なチームを数多く輩出しています。



全国最大級のビジネスコンテストをはじめ
数々の主要コンテストで受賞
2021年 キャンパスベンチャーグランプリ全国大会
文部科学大臣賞
2022年 SDGs探究AWARDS2022 最優秀賞(全国1位)
2023年 ビジネス創造コンテスト 最優秀賞(全国1位)
2022～2024年
Tongali ビジネスプランコンテスト3年連続上位入賞
(2022年 最優秀賞 2023年 優秀賞 2024年 優秀賞)
その他、数々のコンテストで上位入賞

※ 東海国立大学機構を中心とする大学連合体を起点として、東海地域の未来に向けた社会イノベーションに貢献するとともに、多様なステークホルダーとの緊密な協力・共創により、社会と人材・
資金・知の好循環を形成し、大学機能の持続的強化を図る価値創造の流れを創出するモデル

戦略
4 国際展開

ジョイント・ディグリープログラム(JDP)を基軸としたグローバルリーダーの育成と
留学生ネットワークの構築により、地域に根差した国際化を実現する。

岐阜大学の国際展開の特徴は、地域に根ざした国際化と、成果の地域還元によって
グローバル化を実現するところにあります。

岐阜大学の強みを活かした国際展開

グローバル推進機構のダイナミックな取り組み

グローバル推進機構は、ジョイント・ディグリープログラム(JDP、国際連携専攻)を中心とした国際協働教育の推進や、
学生の海外留学支援、本学で学ぶ外国人留学生の修学・生活支援などを通して、国際化を推進しています。



岐阜大学らしさを発揮した
JDP(国際連携専攻)の取り組み

本学は全国大学JDP協議会の会長校を務め、外国の大学との国際教育連携を
通じた教育内容の充実による国際競争力や魅力の向上、優秀な学生の計画的
な受け入れ・派遣を通じた国際的な視野を持つ人材の育成などに寄与します。

岐阜大学は、国際化の推進と教育研究力のさらなる向上を図るため、2019年度から海外協定大学のインド工科大学グワハティ校
(IITG)、マレーシア国民大学(UKM)と協働し、4つの国際連携専攻を開設しています。

■ 国際協働教育を中軸とした地域国際化 — ジョイント・ディグリー・コンソーシアム：グローバル推進機構は、IITGとUKMとともに
に国際協働教育を通じて各大学が関連する各地域の企業をつなぐことで、ジョイント・ディグリー活動の地域・産業界への波及に
取り組んでいます。

相手国	相手大学	研究科名	分野／課程
インド	インド 工科大学 グワハティ校	自然科学技術 研究科	応用生物科学 ／修士
		連合農学 研究科	農学／博士
		工学研究科	工学／博士
マレーシア	マレーシア 国民大学	工学研究科	工学／博士

JDPの理念が生きる
インド工科大学グワハティ校(IITG)との交流

岐阜大学とIITGは2019年度からJDPを運用し、教育、研究面での交流と地域社会への
貢献を果たしてきました。

2022年度からはJDPを中軸とした「グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・
東海圏における実践力のある高度人材育成」がスタートし、日・印の学生が実渡航やオンライン
で各種交流プログラムに参加し理解を深めるとともに、北東インド・東海圏における実践力
のある高度人材の育成を推進しています。

2024年3月には、岐阜大学とIITGはJDPのシンポジウムを
インド北東部アッサム州で開催。インド北東部の発展に向けた
連携強化を確認しました。また、本学とIITGとの交流が日本政府
の海外向け広報動画に採用されました。

